

コース概況 2 暑寒別岳（暑寒～箸別コース）

暑寒別岳（しょかんべつだけ）は、北海道北西部に位置する増毛山地の最高峰である。山名は暑寒別川の水源にあることに由来し、アイヌ語で「ショカンベツ」は「滝の上にある川」を意味するという。増毛山地には標高 1,491.6m の暑寒別岳をはじめ、暑寒別川を囲むように雄冬山、浜益御殿、浜益岳、群別岳などの山が並んでいる。安政五年に開通した古道、増毛山道が、国道 231 号線の開通に伴い廃道になってから 60 年余り経った 2016 年に全線が復元され、浜益御殿や雄冬山に山道を通じるまで、登山道があるのは暑寒別岳だけであった。増毛山道は 2018 年に北海道遺産に指定された。

登山道は増毛町から暑寒と箸別の 2 コース、雨竜町から雨竜沼湿原・南暑寒岳を経由する 1 コースがある。今回我々は早朝にキャンプ地の当別町から増毛町へバス移動し、暑寒荘のある暑寒コースからチーム行動で山頂を目指し、山頂休憩後箸別コースを隊行動で箸別小屋のある登山口まで下るコースを進む。

暑寒荘駐車場にはトイレが整備されており、準備万端で出発できる環境が整っている。駐車場から階段を上ったところに 3 階建て無料の木造山小屋である暑寒荘があり、登山はここからスタートする。この辺りには春先にエゾエンゴサクの群生が見られる。登山口から 1 合目まではトドマツ、ミズナラやシラカンバなどを周囲に見ながら急な階段登りが続く。視界はあまり開けないが、足元にはギンリョウソウやサンカヨウ、エゾアジサイなどが見られるだろう。傾斜が緩むと右に大きくカーブして 1 合目の標柱を確認し、頂上からの長い尾根道に乗る。ここから広く平坦な道を進み、やがて終わりかけのムラサキヤシオツツジが咲く「つつじヶ丘」に到着する。この辺りからは視界が開け、すぐに 2 合目を通過。さらに進むと尾根上に岩が露出した標高 593m の「佐上台」と呼ばれる休憩ポイントに着き、景観を楽しみながら一息つくことができるだろう。

3 合目～4 合目にかけて比較的緩やかな登りが続く。登山道沿いにはシナノキンバイやキバナシャクナゲなどの高山植物が見られるだろう。4 合目辺りからいったん見晴らしが良くなり増毛町や日本海を望むことができるが、ミズナラやかん木の単調な尾根道が続く。

5 合目標識周辺は広場になっており、ここを過ぎると低く這うように枝をくねらすダケカンバに注意が必要だ。足元だけでなく頭をぶつけないように気を付けながら登って行こう。6 合目を過ぎると徐々に斜度が増し、滑りやすい場所には補助ロープが張られている。この急登を上り切った所が 1075.8m の三等三角点である。この辺りからはハイマツ帯が広がり、視界が一気に開けていく。傾斜が緩んで眺めが良くなった道を進むと 7 合目の標識、さらに進むと「滝見台」に到着する。ここからは西尾根の景観や西暑寒岳中腹にかかる大滝が遠望できる。

さらにひと登りすると 8 合目の「扇風岩」といわれる大岩に到着する。ここは小高い展望台のような場所で、眺めが素晴らしく、先程の大滝や西暑寒岳はもちろん日本海や留萌市街も一望できる。この扇風岩を右側から下に回り込むとサマニヨモギやチシマギキョウの蕾が岩場に見られるかもしれない。

岩場を笹原のコルへ下ると、標高差約 250m の頂上台地への急斜面が眼前に現れる。笹原

を抜けてやがて急登に取り付くことになるが、ここが山頂への最後の頑張りどころである。長いロープを活用しながらガレ場を登る所もある。くれぐれも落石に注意し、下から登ってくる登山者への配慮を忘れないように気をつけながら進もう。途中、9合目の標識を経てさらに進むと突然目の前が開け、広々とした頂上台地の上に立つ。後ろを振り返るとこれまで歩いてきた登山道を辿ることができるだろう。山頂に向かって進む足元には、チングルマ、ミヤマアズマギク、エゾツツジ、そして運が良ければ増毛山地の固有種のマシケゲンゲなども見られるかもしれない。やがて箸別コースが左から合流し、雨竜沼湿原や南暑寒岳を左手に見ながらさらに進むと台地の奥に一段高くなった山頂に到着だ。そこは、日本海、増毛町、留萌市街、大雪山、羊蹄山、利尻山、積丹半島などを一望できる360度の大パノラマが広がる。景観を楽しみながら、休憩しよう。

下山は分岐から箸別小屋を目指す右のルートへと下る。頂上台地から下り始めは緩やかで平坦な道を進む。周りをハイマツ、ミヤマハンノキ、草地が取り囲む。やがて急になる下り坂を、足元の大小の石に気をつけながら下る。9合目を経た辺りからエゾノハクサンイチゲやシナノキンバイが咲き誇っていることだろう。上からちょっとした高台に見えた1395mのコブを経て細く続く登山道を下っていく。天気良ければ周囲の展望はずっと開けている。8合目の標識を経て7合目に至るお花畑は、毎年登山客を楽しませてくれる一大スポットだ。シナノキンバイ、エゾノハクサンイチゲ、チシマフウロ、ハイオトギリ、ミヤマアズマギクなどが見られるだろう。7合目標識周辺で展望と花を十分に楽しんで味わい、その先に続く長く展望のあまり利かない長い道を前に、しっかりと英気を蓄えよう。

道は徐々に笹原の中を進み、やがて根曲がり竹と丈の低いダケカンバの森への入口に入る。視界の遮られた樹林帯の中、苔むした岩と泥、木の根の入り組む滑りやすい急斜面が続くので気を抜かず下る。6合目から3合目までの区間は斜面が急になったり緩くなったりを繰り返しながら徐々に下っていく。所々ダケカンバが低く曲がりくねって登山道を覆っているため、足元だけでなく頭上にも注意が必要だ。やがて2合目標識を目にして登山口までもう一息とホットするかもしれないが、気を抜くのはまだ早い。実はここからが長い。各合目表示はだいたい標高100mおきに立てられているのだが、この辺りから緩斜面が続くため登山口までは随分遠く感じられる。普通に歩けば1時間弱の時間を要する。単調で緩やかな尾根歩きに、時々見られるミズナラの大木の光景がアクセントになっている。湿地に巨大になったミズバショウが見られるかもしれない。やがて樹林帯が突然途切れ、登山ポストと広場のある箸別コース登山口に到着となる。